



PROMOTING DIGITAL HUMANITIES THROUGH
INTERNATIONAL TEAM RESEARCH

A STUDY OF THE BEGINNING AND END OF THE
MODERN JAPANESE NATION-STATE USING THE
IRCJS COLLECTION OF LETTERS TO TETSUJIRO
INOUE AND THE SEITA TOMA ARCHIVE

Jun'ichi Isomae

Public Sphere (Democracy) at Nation-State with Exclusion and Human Rights

◦ What is “liberal” democracy

Freedom of Unlimited Desires

Or Liberation from Desires

▪ Whose Desires are ?

Consumer Capitalism = Captured by
Mysterious Other's Gaze (Lacan)

the Beginning of the Modern Japanese
Nation-State

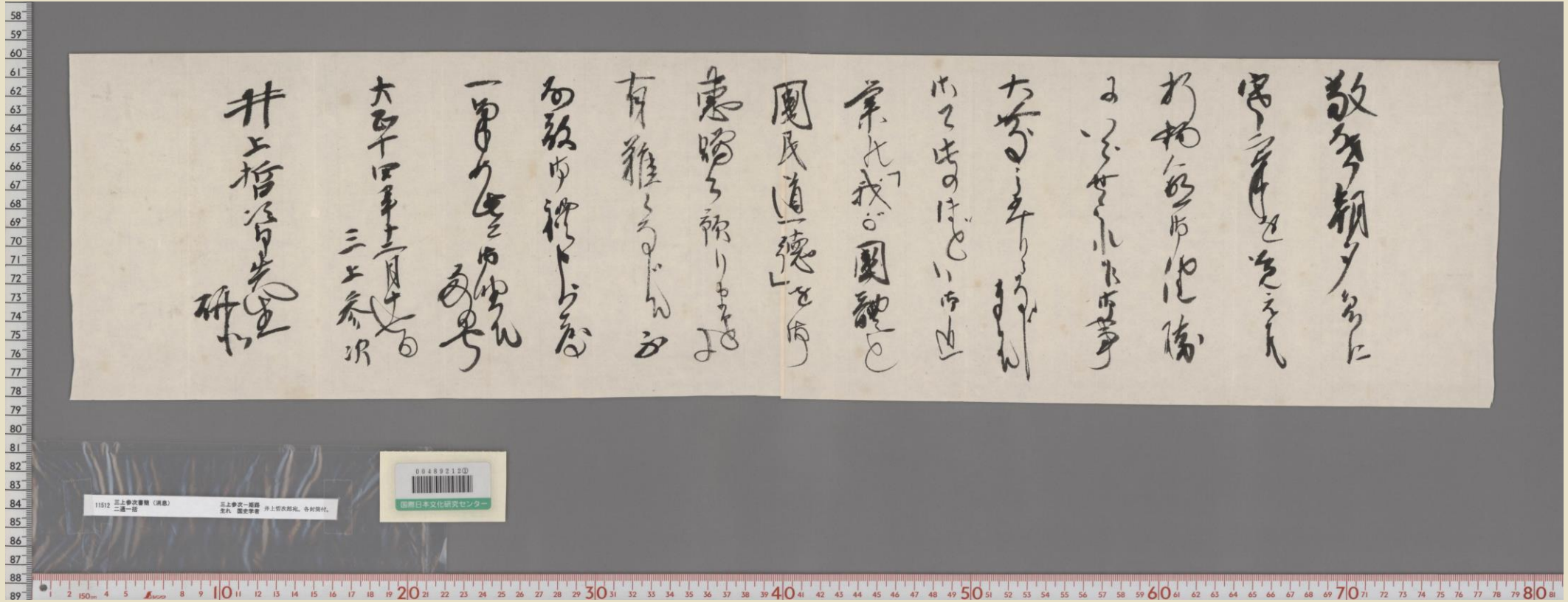


Tetsujiro Inoue 井上哲次郎 (1856-1944)

Collection of Letters addressed to Tesujiro Inoue (IRCJS)

- 本センターには、センターが平成24年に購入した井上哲次郎（1856～1944）宛書簡類、140点（明治～昭和）が所蔵されています。具体的には、井上の東京大学助教授時代から、東京帝国大学文科大学長、大東文化学院総長時代を含む、明治15年から昭和16年の間の書簡類となります。本データベースは、その書簡類の画像を公開するものです。
- 主だった差出人には、哲次郎の弟子筋にあたる吉田熊次（教育学者）、加藤玄智（宗教学者・神道学者）の他、加藤弘之（政治学者）、浜尾新（教育行政官）といった大学総長経験者、そして大和田建樹（国文学者）、笈克彦（法学者）、高島米峰（仏教思想家）、村上専精（仏教学者）、境野黄洋（仏教学者）、友松円諦（仏教思想家）、大西友太（哲学者）、呉秀三（精神病学者）、三上参次（歴史学者）、穂積陳重（法学者）など、当時の錚々たる学者たちの名が見え、井上哲次郎の交流の広さがうかがえる史料と言えます。

大正14 (1925)年12月21日 三上参次書簡 (Letter by Sanji Mikami)



Benedict Anderson,
Imagined Communities (1983/1991)

“The ‘political power of nationalism vs. their philosophical poverty and even incoherence. In other words, unlike most other isms, nationalism has incoherence.’” (p.5)

A Study of the Beginning of the Modern Japanese Nation-State

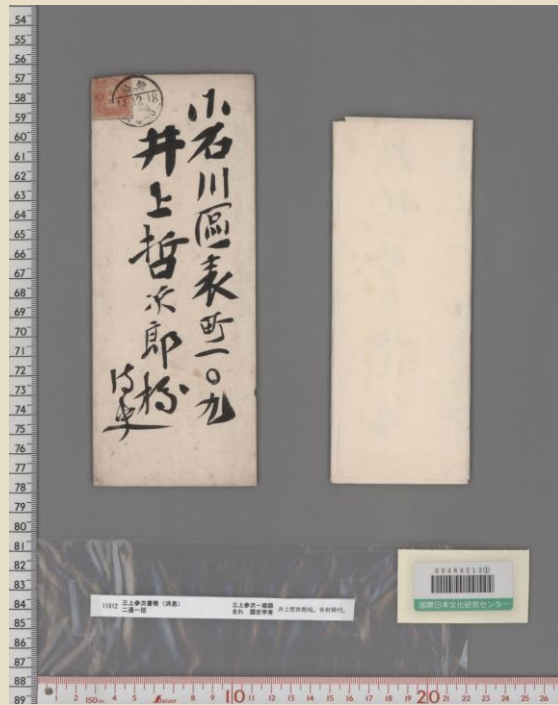
Collection of Letters to Tetsujiro Inoue

- 井上哲次郎（1856～1944）は明治期の東京帝国大学を代表する哲学者であった。日文研にはその書簡が140点所蔵されている。本共同研究会では、その書簡の体系的な分析をもとに、日本における国民国家の始まりの姿がどのようなものであったのかを考察する。作業としては、1)井上を中心とする知識人のネットワーク分析、2)国民国家における全体主義と民主主義の関係の考察、3)国民国家における人権と主権の関係の考察を三つの柱として行う。

それらの作業を通して、1)井上が作った知識人のネットワークにおいて、国民国家がどのように構想されたのか、2)そこにおいて民主主義と全体主義はどのように区別されていたのか、あるいはいなかったのか、3)そこでは人権および主権がどのように関係付けられ、国民国家を支えるものとして構想されていたのかを明らかにする。

その結果として、国民国家や民主主義が形骸化する現代の日本社会のあり方を浮き彫りにしたいと考えている。

From “the History of Ideas”
to “the Web of Human Relationship”
(Letters, Writings and Diary)

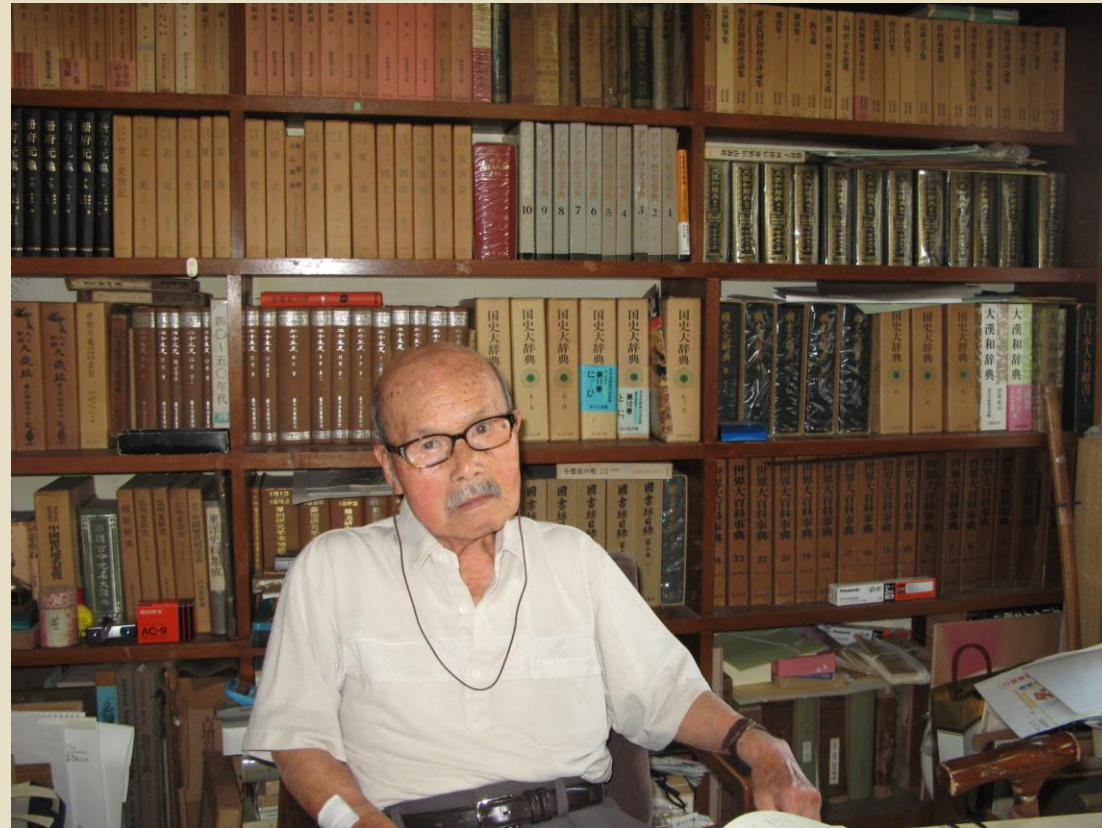


(1891)



懷中雜記

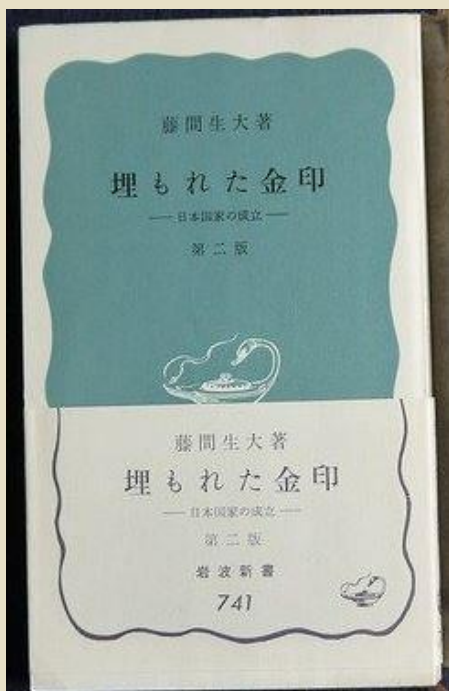
the End of the Modern Japanese Nation-State



Seita Toma 藤間生大 (1913-2018)

Writings of Seita Toma

From the Theory of Heroic Ages to East Asia



(1950)



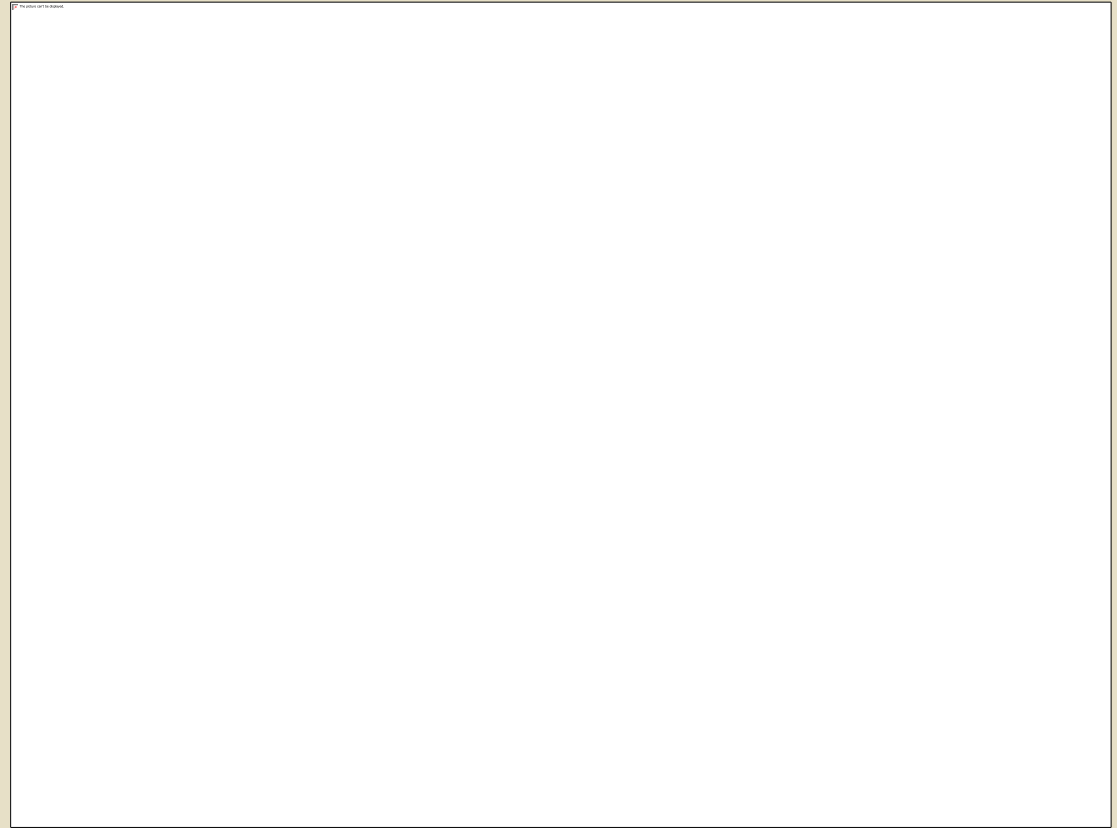
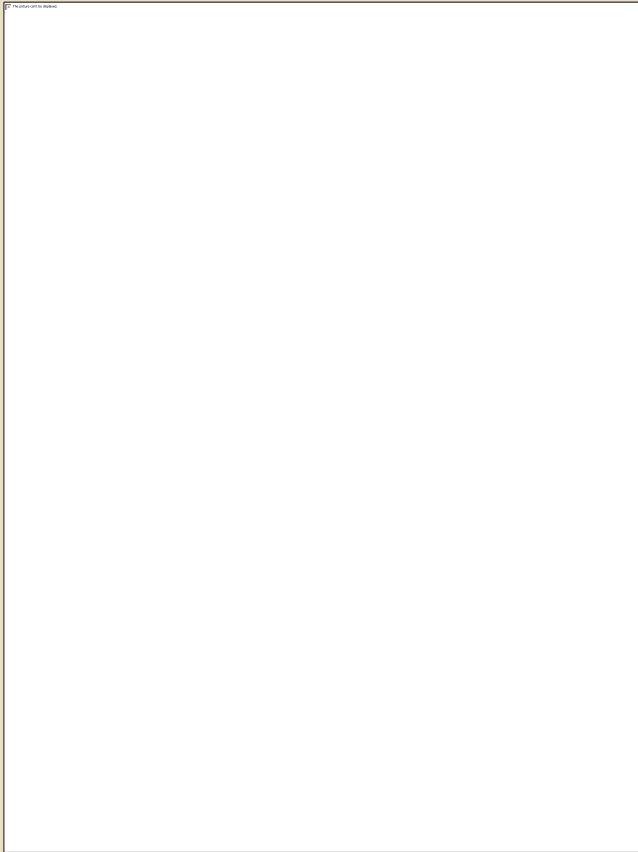
(1977)

Life of Seita Toma

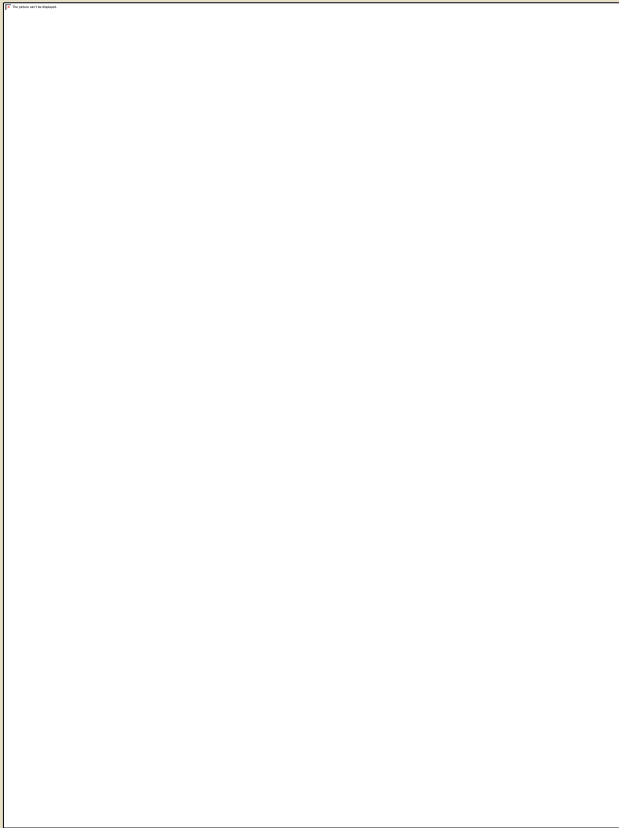
(Booklet)

- 1913年広島市に生まれた藤間は、1931年に早稲田大学予科第二高等学院入学とともに上京する。第二次世界大戦中は、歴史家であり彼の盟友でもあった石母田正とともに古代史の研究に勤しみ、戦後には、気鋭のマルクス主義者として民族解放運動および国民的歴史学運動の先頭に立つ。一九五〇年代前半には、戦後民主主義を担う革命的主体を立ち上げるべく英雄時代論を唱え、一世を風靡した。しかし、1955年以降、民族解放運動の急激な衰退に伴い、藤間や石母田がめざしたマルクス主義歴史学も後退を余儀なくされる。その後、市井の学者として研究をつづけるが、1971年に熊本商科大学(現在の熊本学園大学)に教授として就職することが決まり、九州から斬新な東アジア論を展開した。しかし、そこでも国境を超えて活動する世界史的個人としての商人と、商人でも倭寇のような暴力的な略奪にも変わる者たちの罪意識とキリスト教信仰のかかわりを探った。

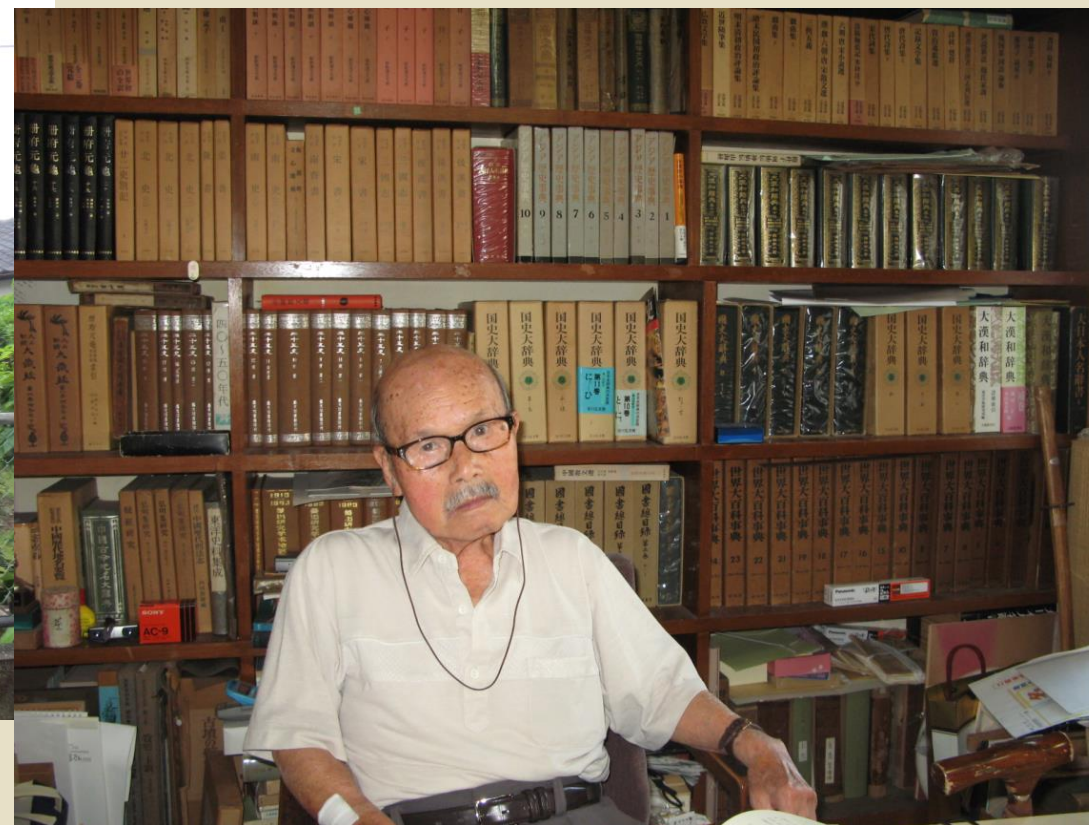
Research Notebook



Letters and Photos



Memorial Library for Toma Seita 藤間生大記念文庫



From Despairs to Hopes

Seita Toma, *Historiography of Hopes* (2018)



Message from Toma

[Video link](#)

